

2022年5月12日

各 位

会 社 名 株式会社アール・エス・シー
 代 表 者 名 代表取締役社長 金井 宏夫
 (東証スタンダード・コード4664)
 問 合 せ 先 取 締 役 山口 規
 電 話 03-5952-7211

中期経営計画に関するお知らせ

当社は、2022年3月期を初年度とし、2026年3月期を最終年度とする「中期経営計画」につきまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 計画の基本方針

『たゆまぬ「革新」を通じて、お客さま、従業員、株主さま、そして地域社会の皆さま、すべてのステークホルダーに「安全」と「満足」を提供するプロフェッショナル集団』をスローガンに当社の企業価値向上を基本方針としています。

2. 基本戦略

収益力の向上

- ◆ 施設のあらゆる業務をワンストップで提供するソリューション提案の推進
- ◆ エリア単位での管理によりコストダウン・省人化を推進するエリア管理体制の構築

技術力の強化

- ◆ 資格保有者の増強および人材育成の強化によりサービス品質の維持・向上
- ◆ 警備ロボットやAIカメラなどの新技術の導入

職場環境の改善

- ◆ 女性の活躍推進や社内制度の見直しによる従業員エンゲージメントの向上

経営基盤の強化

- ◆ DX化の推進による生産性の向上
- ◆ 積極的なM&Aによる外部資源の活用

3. 主な計数目標

	2026年3月期（目標）
連結売上高	7,000百万円
連結営業利益	350百万円
連結営業利益率	5.0%
配当性向	20.0%以上

以 上



中期経営計画

(2021年3月期～2026年3月期)

－ 創立50周年 －

株式会社アール・エス・シー
(東証スタンダード 4664)



創立50周年を迎えて



当社は1971（昭和46）年に創立され、2021（令和3）年で50周年を迎えました。スタート当初は「総合ビル管理株式会社」の社名で、1995（平成7）年に現在の「株式会社アール・エス・シー」に社名を変更いたしました。

“Reliance Service Corporation” = 『信頼されるサービスを提供する会社』を目標に発展してまいりました。「サンシャインシティ」とともにスタートし、50年の節目の年に「丸ビル」の警備業務を受注することができました。こうした日本を代表するビルを管理する仕事に関わらせていただき、当社は恵まれた会社だと感じます。

私たちは、まだまだ発展途上です。さらなる高みを目指して進んで行かなければなりません。これからの50年先の100周年を見据えて、新しい一歩を刻んでいく所存です。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



株式会社アール・エス・シー
代表取締役社長 金井 宏夫

カンパニー・ハイライト

- ◆ 創業50周年を迎えた人材サービスも提供する総合ビルメンテナンス企業
- ◆ サンシャインシティや丸の内ビルディング（丸ビル）など、日本を代表するビルの管理業務を手掛ける
- ◆ 警備、清掃、設備・工事、受付、人材サービスなどを組み合わせた、総合的なサービス提案に強み
- ◆ 業界DX化に向けて、機械化や新技術（ロボットやAI等）の積極的な活用にも取り組む

会社概要

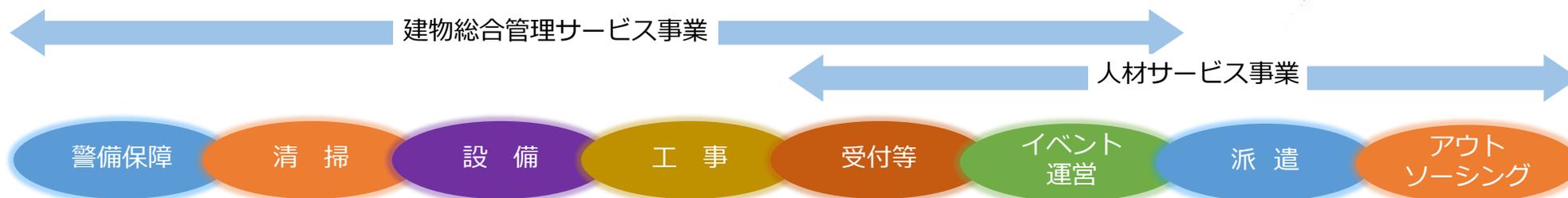
～「警備保障」、「メンテナンス（清掃、設備・工事、受付等）」、「人材サービス（人材派遣・イベント運営等）」を展開～

商号：株式会社アール・エス・シー
住所：東京都豊島区東池袋3-1-3
サンシャインシティワールドインポートマートビル8階
設立：1971年9月10日
資本金：3億200万円
従業員：1,470名（2022年3月31日現在）
支店：大阪支店、名古屋支店、仙台支店
研修施設：RSC研修所
グループ企業：株式会社アール・エス・シー中部、総合システム管理株式会社

【ネットワーク】



【事業構成】



中期経営ビジョン（2021年3月期～2026年3月期）

経営理念の実現

RSCグループは、信頼されるサービスを提供し、人が生活するあらゆる場面において、常に安全・安心・快適な環境を創造していきます。

環境変化への対応

人材不足、技術革新の進展
業界再編の動き

当社らしさの継承

長期的な信頼関係を重視する姿勢
従業員を大切にする社風

中期的に目指す姿

持続的成長に向けた基盤づくり

地域社会の発展への貢献

革新的なサービスへの挑戦

たゆまぬ「革新」を通じて、お客さま、従業員、株主さま、そして地域社会の皆さま、すべてのステークホルダーに「安全」と「満足」を提供するプロフェッショナル集団

外部環境及び価値創造の源泉

環境認識

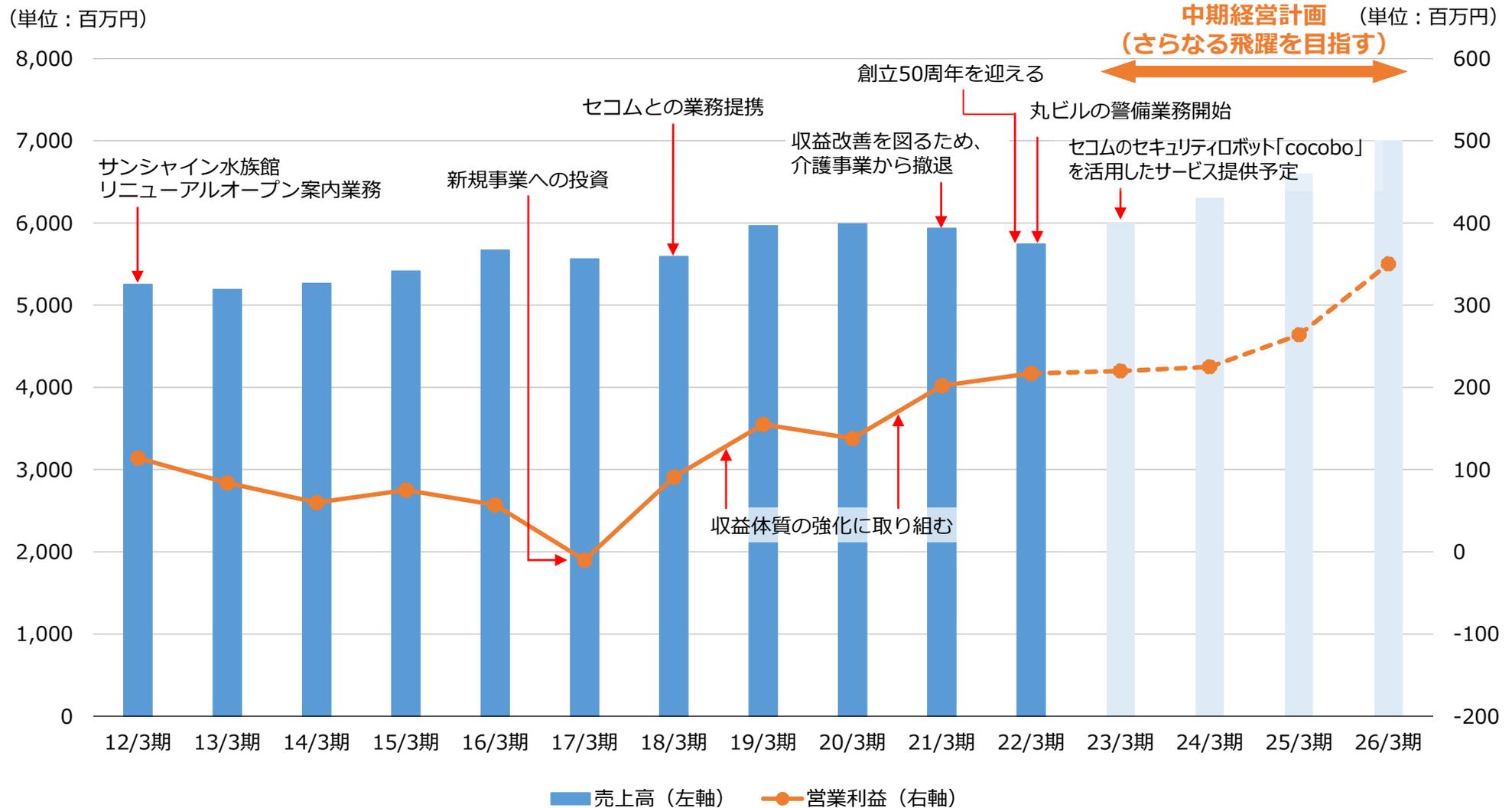
- ・人手不足、採用難
- ・DX化及び技術革新
(ロボットやAI活用による省力化／新たな価値提供)
- ・コロナ禍の影響
(値引き圧力、新たな需要の出現)
- ・顧客動向
(再開発プロジェクト、建築コストの上昇等)
- ・競争環境
(新規参入、再編の動き、DX化が競争力のポイント)

価値創造の源泉

- ・優良施設を手掛けてきた管理実績と、そこで培ってきたノウハウ、信頼、ネットワーク
- ・ビル施設に係わるワンストップソリューションの提供
- ・機械化や新技術の導入により、業界の「変革」にも積極的に取り組む
- ・女性の活躍を支える職場や働きやすい環境づくり

新たな事業機会の創出

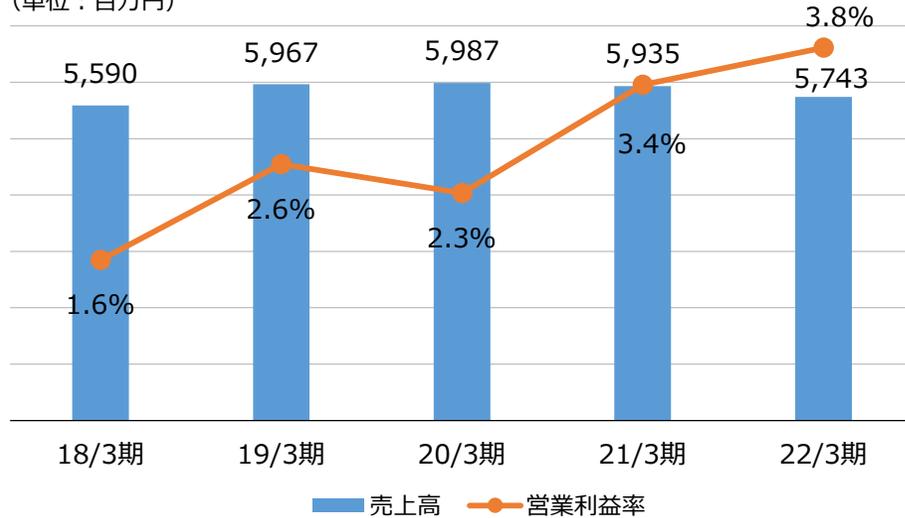
連結業績の推移



財務ハイライト

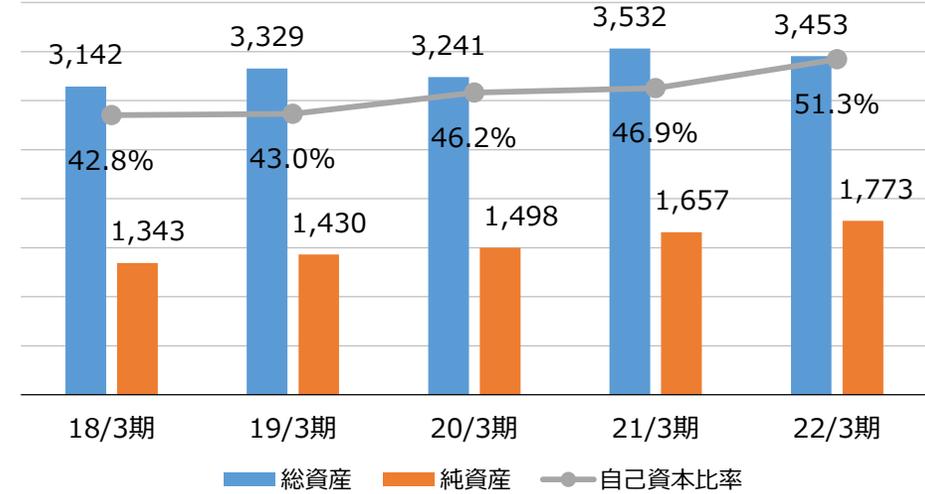
【売上高、営業利益率の推移】

(単位：百万円)

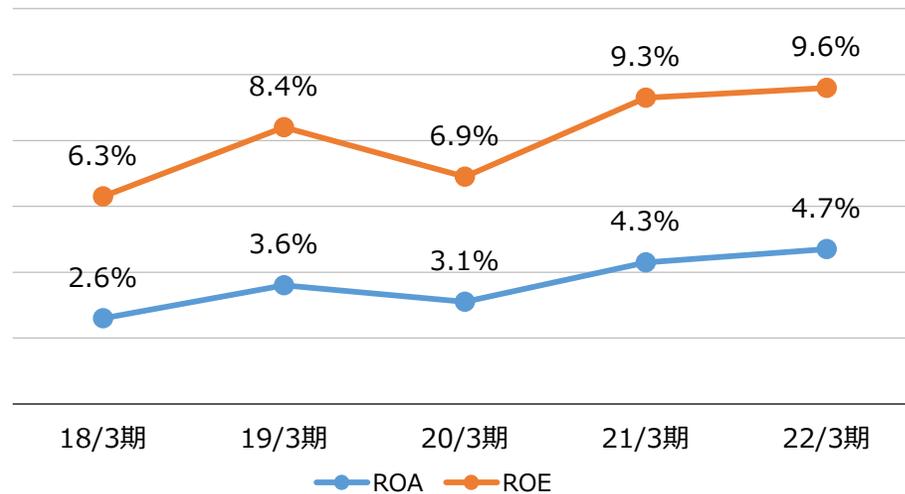


【総資産、純資産、自己資本比率の推移】

(単位：百万円)

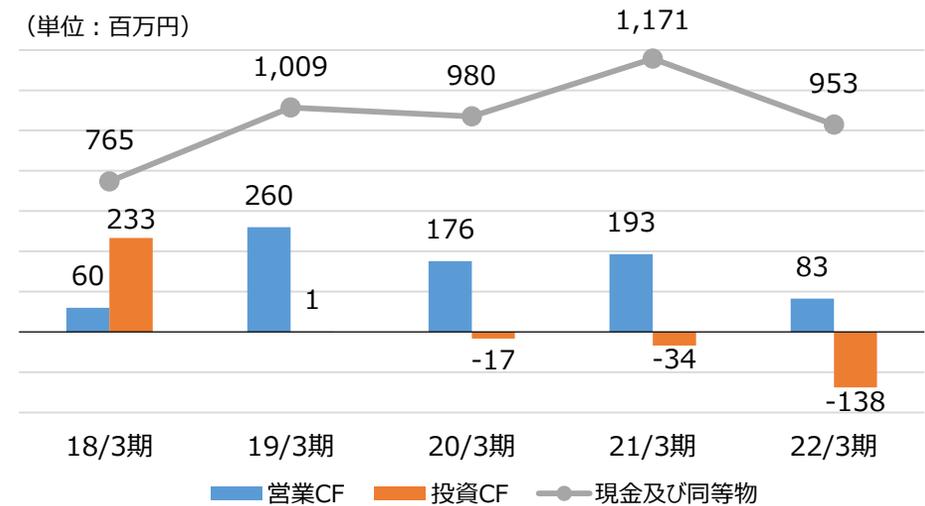


【ROA、ROEの推移】



【営業CF、投資CF、現金及び現金同等物の推移】

(単位：百万円)



数値目標

～ ソリューション提案と収益体質の変革により、持続的な利益成長の基盤をつくる ～

(単位：百万円)

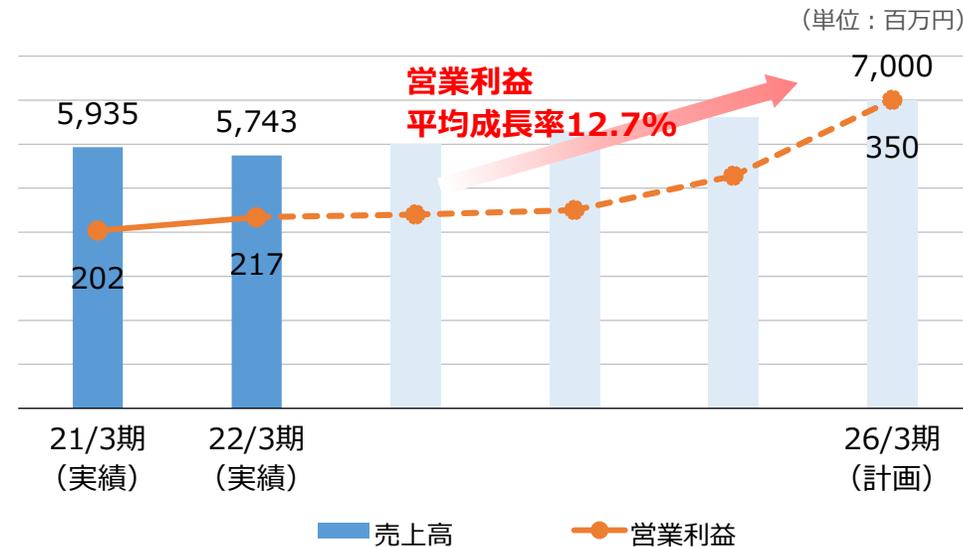
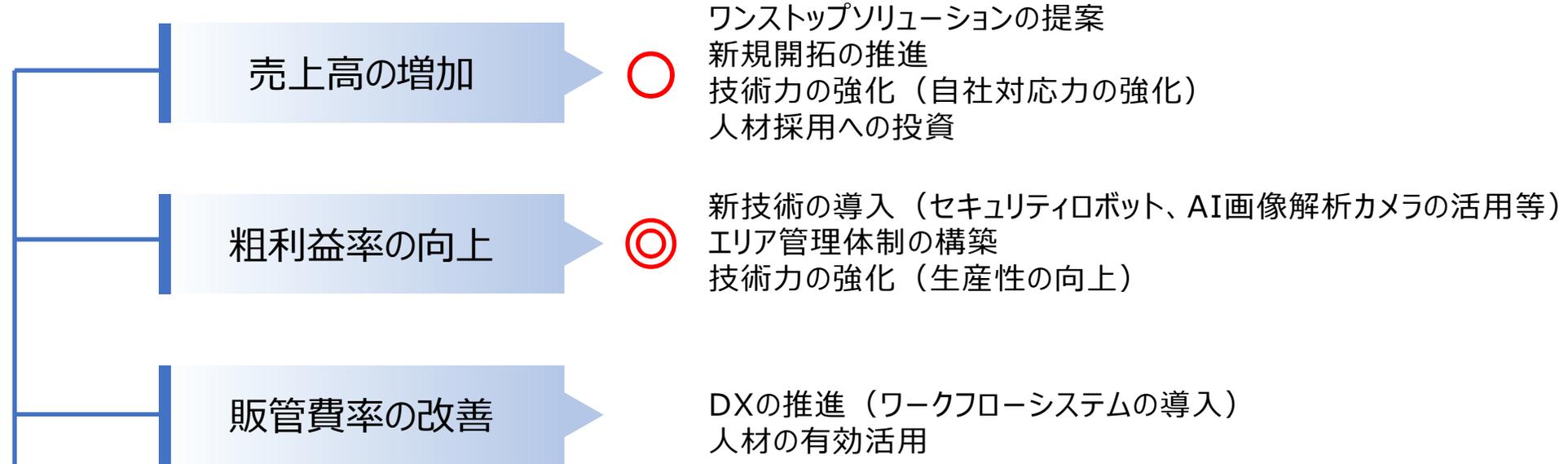
【損益計画】	21/3期 (実績)	22/3期 (実績)
連結売上高	5,935	5,743
売上総利益	1,070	1,093
売上総利益率	18.0%	19.0%
営業利益	202	217
営業利益率	3.4%	3.7%
経常利益	218	244
経常利益率	3.7%	4.2%
当期純利益	147	164
当期純利益率	2.5%	2.8%



(単位：百万円)

26/3期 (計画)	増減 (22/3期比)
7,000	+1,257
1,400	+307
20.0%	+1.0 pp
350	+133
5.0%	+1.3 pp
360	+116
5.1%	+0.9 pp
252	+88
3.6%	+0.8 pp

収益ドライバー



基本戦略について

基本戦略①

収益力の向上

- ・ソリューション提案
- ・エリア管理体制の構築

基本戦略②

技術力の強化

- ・サービス品質の維持/向上
- ・新技術の導入

基本戦略③

職場環境の改善

- ・従業員エンゲージメントの向上
- ・女性の活躍推進

基本戦略④

経営基盤の強化

- ・持続的な成長の実現
- ・環境への配慮



持続的な利益成長の基盤づくり

収益力の向上

ソリューション提案

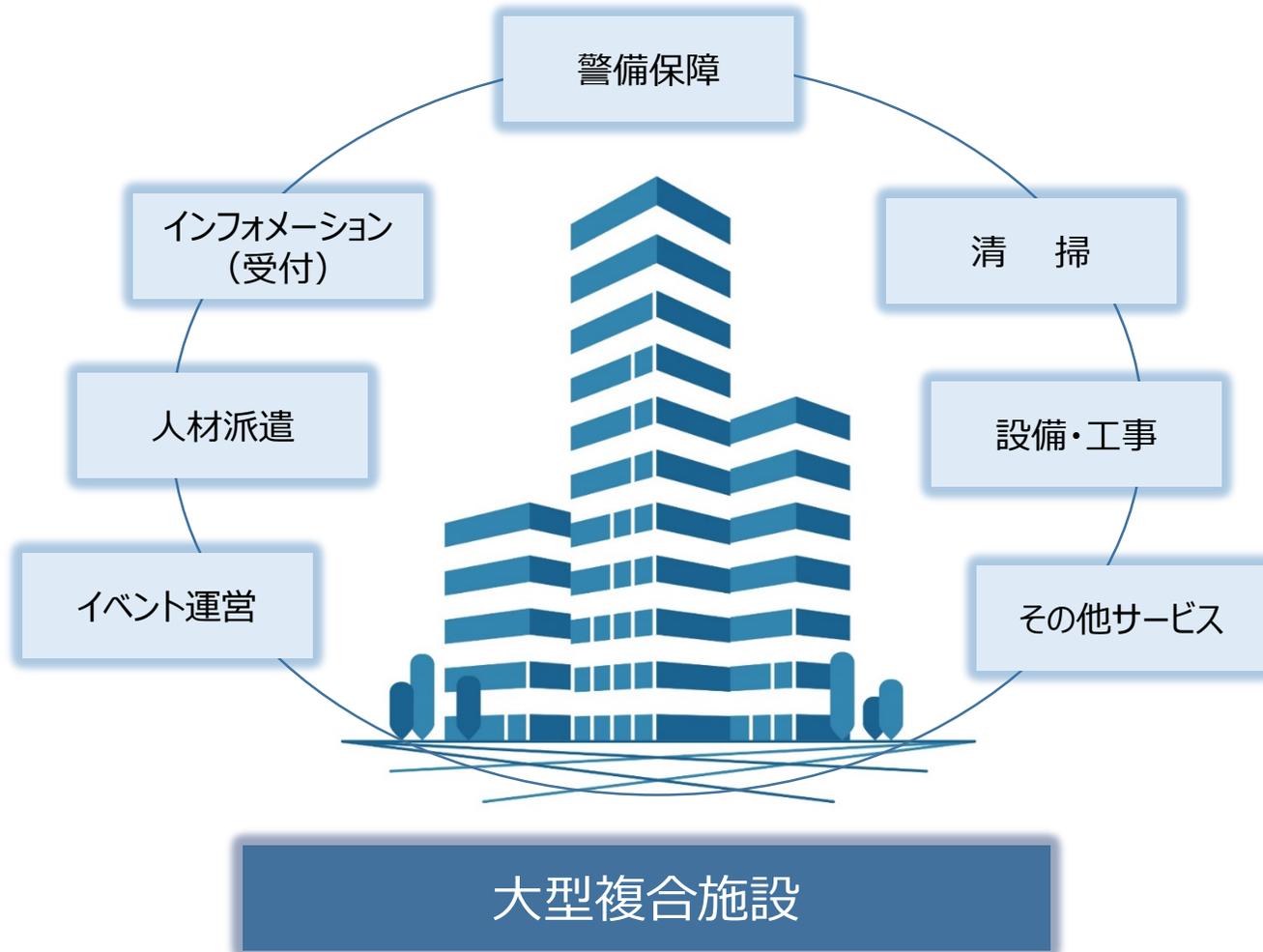
- 施設のあらゆる業務に対応
(警備保障、清掃、設備・工事はもとより、受付、イベント運営等の人材派遣を含めワンストップで提供)

エリア管理体制の構築

- 個々施設への配置から、エリア単位での管理によりコストダウン・省人化を推進
(ワンストップソリューションを点から面へ)

ワンストップソリューションの提供

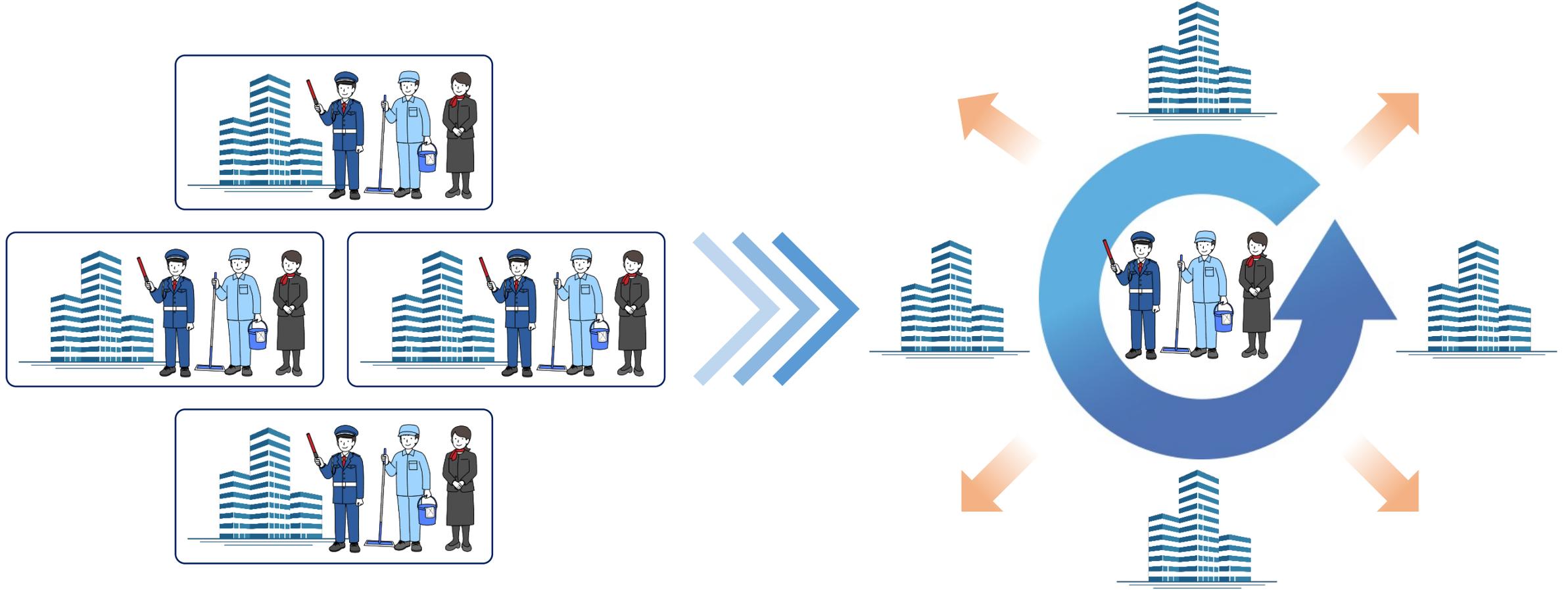
ワンストップソリューションの提供



総合的な提案力を活かした
ワンストップソリューションを
提供

エリア管理体制の構築

個々施設への配置から、エリア単位での管理によりコストダウン・省人化を推進



ワンストップソリューションを点から面へ展開

技術力の強化

サービス品質の維持・向上

- 資格保有者の採用・育成
- 自社対応力の強化、生産性の向上

新技術の導入

- セキュリティロボット（セコムとの業務提携）、AI画像解析カメラ、清掃ロボット、受付案内システムなど

サービス品質の維持・向上

自社保有の研修施設を活用した実践的な人材育成カリキュラム

刺又訓練



自動火災報知設備
訓練機器訓練



受付研修

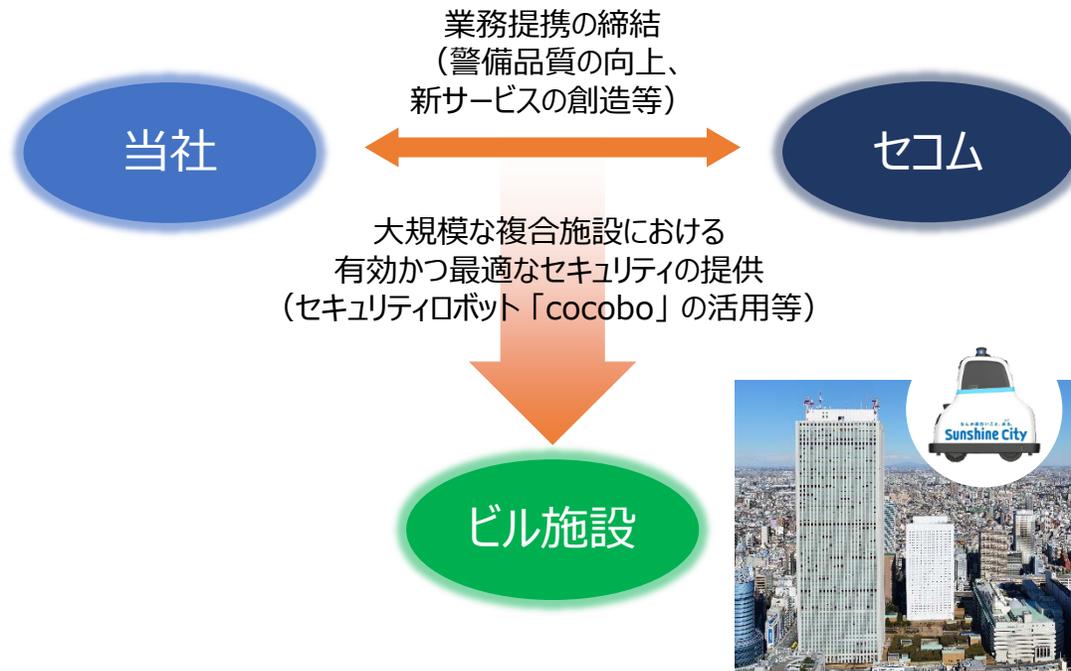


AED研修



セコムとの業務提携による新技術の導入

～ サンシャインシティにセコムのセキュリティロボット「cocobo（ココボ）」の導入で合意 ～



セキュリティロボット「cocobo」

「cocobo」の活用により、人の目だけでは見つけることが難しい危険を察知して、施設・利用客の安全を早期に確保したり、警備員の立哨・巡回業務の負担軽減（その分、来訪客への対応をより充実させることが可能）や、夜間における配置効率化が期待できる

【これまでの経緯】

2019年9月

サンシャインシティで自律走行型巡回監視ロボット「セコムロボット X2」を活用した実証実験を実施（有効性や安全性等を確認）



2022年2月

セコムから、最先端技術を活用して業務を行うセキュリティロボット「cocobo（ココボ）」を導入し、「サンシャインシティ」で活用することに合意（2022年6月よりサービス開始予定）

職場環境の改善

従業員エンゲージメントの向上

- 女性の活躍推進（受付業務の管理体制の強化に向けた専門部門の新設）
- 社内制度の見直し（資格取得の推奨、教育制度の見直しなど）



経営基盤の強化

持続的な成長の実現

- DX化の推進による生産性向上（ワークフローシステムの導入、ペーパーレス化、プロセスの効率化）
- 外部資源の活用（業務提携、M&Aの積極的な推進）
- 環境への配慮

投資方針

安定した財務基盤を活用し、人材確保、展開エリアの拡大、新技術の獲得、資本業務提携、M & A等を目的とした投資に前向きに取り組む。

[財務比率]	21/3期 (実績)	22/3期 (実績)
ROIC	6.7%	7.0%
ROA	4.3%	4.7%
ROE	9.3%	9.6%
自己資本比率	46.9%	51.3%

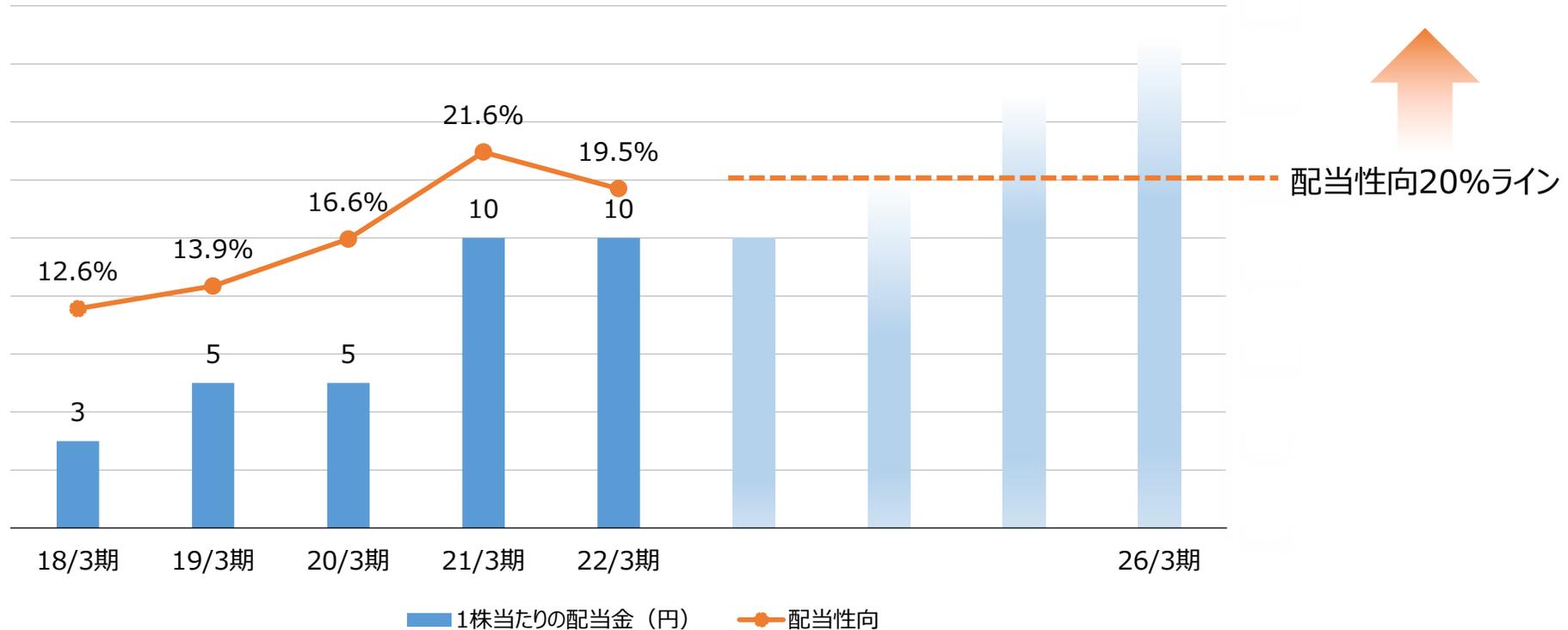


26/3期 (計画)	増減 (22/3期比)
7.0%以上	+0.0 PP
6.0%	+3.3 PP
10.0%	+0.4 pp
50.0%以上	-

株主還元方針

安定配当を基本としつつ、配当性向20%以上を目安として、利益成長による増配を目指していく

【配当実績と今後の配当イメージ】



SDGsへの取り組み

人材育成と従業員エンゲージメントの向上



具体的な取り組み

- ・資格取得の推奨
- ・教育制度の見直し
- ・女性活躍機会の創出

本中計との関連

- 基本戦略 **2**
- 基本戦略 **3**

安全・安心・快適なまちづくり



- ・警備ロボットの導入
- ・画像解析監視カメラの利用

- 基本戦略 **2**

環境への配慮



- ・警備制服のリサイクル
- ・ペーパーレス化の推進

- 基本戦略 **4**

免責事項

- 本資料の作成に当たり、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、作成しております。
- また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。
- 当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。